

夏まつりで地域に活気

美保野地区「里山」に住民集う

八戸

八戸市美保野地区で里山づくりを進めている「美保野小学校地域学校連携協議会」(小野寺修会長)は8月28日、同小グラウンドで、「みほの里山夏まつり」を開いた。美保野中学校が2



地域住民らがよさこい演舞などを楽しんだ「みほの里山夏まつり」

013年3月に閉校したのを受けて地域を活気づけようとした。同協議会は同小や美保野

・金吹沢町内会、同地域で

施設を営む社会福祉法人などで組織し、まつりは実行委員会(斉藤克雄会長)を設けて行っている。今年は一戸学院大学など地域の9団体が後援、市内の56事業所が協賛した。会場には手作りパンや焼きそば、野菜などを販売するテントがずらりと並び、祭りムードを演出。ステージ発表などのプログラムは

八戸北高校吹奏楽部の演奏で開幕し、よさこい演舞、風船を使ったパフォーマン、カラオケ大会などが繰り広げられた。同協議会は、学校を中核とした協働のまちづくりを進めるため、同小周辺の環境整備や里山づくりに力を入れている。まつりでは散策道を利用した里山探検も行われた。

開会式では、八戸ロータリークラブ(鶴飼寿栄会長)が里山整備資金として同協議会に20万円を贈呈。社会福祉法人同伸会(岩淵惣二理事長)も、同法人などのイベントで募った善意約3万円を寄付した。小野寺会長は「里山整備はまだ道半ば。大事に使わせていただく」と話した。

(館花光秀)